

## 6 月月例集会校長講話要旨

### ○ならぬことはならぬ

社会生活を送るうえで、他の人に迷惑をかけないというのが、人としての常識です。その常識を弁えて、きちんとした行動をとってもらいたいと思います。

江戸時代、福島県の会津地方を領地とした、松平氏会津藩では、同じ町内の6歳から9歳まで武士の子供たち男子10人くらいの集まりをつくり、今でいう小学校の登校班のようなものですね。これを「什(じゅう)」といいました。その仲間の中には、子どもたちが自発的に作った「什の掟」というのがあって、それが代々受け継がれてきました。

- 年長者(としようのひと)の言うことに背いてはなりません
- 年長者(としようのひと)にはお辞儀をしなければなりません
- 嘘をいうことはなりません
- 卑怯な振る舞いをしてはなりません
- 弱い者いじめをしてはなりません
- 戸外(家の外)でものを食べてはいけません
- 戸外(家の外)で婦人と言葉を交えてはなりません

ならぬことはならぬものです

毎日、この集まりでは、1日を振り返って反省会をして、什のリーダーから指導を受けます。この掟に背いた場合には、「無念」、「しっぺ」、「絶交」などの罰がありました。現在では、女の人と話をしてはいけないとか、家の外で食べ物を食べてはいけない、大人には必ずお辞儀をしなければならないというのは難しいものもありますが、「嘘を言ってはいけない」、「卑怯な振る舞いをしてはいけない」、「弱い者いじめをしてはいけない」というのは今でも通じる大切なことです。そして会津の子供たちは「ならぬことはならぬ」やってはいけないことは絶対にやってはいけないということを自ら学んでいます。ぜひ皆さんも「ならぬことはならぬ」ということを自覚して行動してください。

### ○自己肯定感について

5月17日(金)のHRで高校生には「ハイパーQU」を行いました。この「ハイパーQU」は「よりよい学校生活と友づくりのためのアンケート」で、すでに中学校で経験している人も多いことでしょう。このアンケートは自分自身が学校生活を前向きに送ることができるか、居心地の良い環境で生活できているかを知る指標、目印となるもので、そして自分自身の自己肯定感について考えるものです。

政府内閣府が6年前の2018年に行った「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」の結果を紹介します。この調査は日本を含めた7か国の13~29歳を対象に人生観など6項目について調べたものです。「自分自身に満足しているか」という問いに対し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4択です。このうち「そう思う」と答えた人の比率はアメリカでは57.9%、フランス42.2%、イギリス42%、韓国36.3%、ドイツ33%、スウェーデン30.8%で、「どちらかといえばそう思う」を含めると、これらの6か国は少なくとも全体の4分の3、約75%は自分自身について肯定的・ポジティブにとらえているようです。

しかし、日本の若者は「そう思う」が10.4%、「どちらかといえばそう思う」を含めても45.1%で半数以下でした。「自分には長所があると感じているか」という別の問いへのポジティブな答えが7か国中最も低かったことで、調査結果発表当時大きな話題になりました。

なぜ日本の若者は自己肯定感が低いのでしょうか。日本の若者は自らをアピールすることが苦手だといわれ、この特性が相対的に控えめな答えになった部分があるのではないかと考えられます。根拠のない自信過剰は困りますが、押しなべて日本の若者は、自分自身に自信がない人が多いと言われています。自分自身を過小評価しすぎているのでしょうか。

## ○少年よ ちいさくかたまるな

サトウハチローの詩集「あすは君たちのもの」の中に「少年よ ちいさくかたまるな」という詩があります。その一節を紹介します。

少年よ／空気をかみしめながら／自分をためし 自分と戦え  
少年よ／小さくかたまるな／動きがとれなくなる  
のびる手がある／動く足がある／使いたくなる  
するどい目がある／敏感な耳がある／ものを見きわめたくなる  
冒険がある／夢がある／願いをかなえたくなる  
少年よ／その中におもいきりひたり  
その日その日の生活(くらし)に／すばらしい弾力をつけろ

とくに、「のびる手がある／動く足がある／使いたくなるするどい目がある／敏感な耳がある／ものを見きわめたくなる」

この一節は現在の皆さんにとっても必要な姿勢です。よく物事を見つめて、真実に迫ってほしいと思います。この詩は1967年に発表されたもので、国語の教科書にも掲載されていた有名な作品です。書誌学的にいうと、私が中学1年の時(1972年)に初めて教科書に採用された作品で、私と同学年の人が初めて国語の授業で触れたこととなります。先ほどの自己肯定感の話とつながるのですが、自分自身の過小評価と合わせて小さく固まってしまうことは、50年以上前から感じられていたことのようにです。小さく固まらず、自分を信じ、自分を試し、自分と戦うことがこれからの皆さんが必要とする心構えと思ってください。チャレンジすることが若者の特権です。

## ○体育祭に向けて

来週10日(月)は、初めての中高合同体育祭です。今年の年明けの1月の月例集会の終わりに私は、こんな話を皆さんにしました。

「本校は2千人近い生徒がいますので、一つにまとめることが難しく、どうしてもバラバラになってしまい、学校としての一体感がなかなかうまくいかなかったと思っていました。全国高校駅伝の応援の時に感じたのは、こういった大会やイベントなどにみんなで参加することで、自分たちの学校や仲間に、愛着や誇りを持てるのではないかということです。

新しい年が始まります。本校として新しい取り組み、学校が一つにまとまり、学校への愛着や誇りを一層高めることをしていきたいと考えています。その一つとして考えたのが、6月のスポーツフェスティバルを発展させて、中学校・高校合わせた大運動会をやりようと思います。

場所は、東京千駄ヶ谷の東京体育館です。隣がオリンピックの開会式が行われた国立競技場です。6月10日(月)に予約が取れました。会場には観覧席も十分にありますので、保護者の方にも見ていただけます。実行委員会をつくって協同して中高合同の「大運動会」・体育祭を実施して、新しい伝統を作っていきます。」 また、今年度の始業式では、

「今年は本校創立60周年です。60周年に合わせていくつかの変革をする予定です。これは本校が60周年を迎え「新たな伝統をつくる」ことの一環です。本校として新しい取り組み、学校が一つにまとまり、学校への愛着や誇りを一層高めたいと考えています。」と話しました。

4月22日から2泊3日で実施した、中高1年生全員の新生HR合宿は、3日間天候には恵まれませんでしたが、約700人、バス18台を利用しての合宿を行いました。コースごとに体験する内容は別でしたが、2日目のキャンプファイヤーは大変盛り上がりました。コースや中1、高1の学年を超えて1つになった出来事だったと思います。

同じように来週の体育祭も全校が一体となった行事として盛り上がりたらいいと思います。そこから新たな伝統が生まれると考えています。

## ○今日のまとめです

ならぬことはなりません、自分を信じ、小さく固まることなく、チャレンジをしましょう！